

遠くの被災地に支援の手を

🚩 かごしまベルマーク運動推進の会ルポ

鹿児島市の中心街にあるかごしま市民福祉プラザの4階、ボランティアセンターに、小学生からお年寄りまで28人が集まりました。かごしまベルマーク運動推進の会のメンバーです。第二土曜日の午後、ここでマークの仕分け・集計作業をしています。7月13日、その活動を見学に訪れました。

会の代表がベルマーク大使でもある平嶺光子さんから10代の4姉妹に交代し



て最初の会合でした。冒頭、新代表のうち板坂麻菜華さん、ありささんが、あいさつに立ちました。「6年前から活動しています。東日本大震災の1年後に現地を訪れて、いろいろ学びました。遠い鹿児島からでもボランティアができると知って活動を始めました。離れたところからでも、誰でも参加できるのがベルマーク運動。がんばって行きたいです。目標は、鹿児島市民1人1点として、60万点です」と麻菜華さん。

ベルマーク大使でジブラルタ生命の松本哲さんも応援に駆けつけました。土曜日のボランティアセンターは他に人も少なく、広いロビーにある机をほぼ全面的に利用できます。みな、思い思いのグループに別れて作業を始めました。

使っている道具をよく見ると、どこか見覚えのある形。「そう、これは豆腐のパックです。あっちはかき氷」と説明してくれたのは清原久子さん(75)。東日本大震災の報道で津波に車が流されていく映像を見て、1993年に地元・鹿児島で起きた水害の記憶と重なり、何かでき

ないかと思ったそうです。「そんな中、新聞で会の活動を知り、これだ!と思って飛びついた」と話してくれました。

隣にいた川原テルさん(73)も、そう思った1人。「活動の案内が新聞にその都度載っている。継続的でしっかりした団体だと思い、参加しました」。

黙々と続く作業は、1時間ほどで小休憩に。お茶とお菓子が用意されました。お菓子は、チョコにクッキー、おせんべと種類も豊富でおいしそう。バザーなどで稼いだ資金で買うほか、いただきものもあるとのことでした。

そのころになると、板坂菜々乃さん、茉莉菜さんも姿を見せ、4姉妹が勢揃い。地元紙の南日本新聞の記者も取材に訪れ、4人にインタビューを始めました。この取材は後日、同紙で大きく報道され、平嶺さんのもとには問い合わせ電話が朝から入り続けたそうです。

4姉妹は松本大使とも対面。平嶺さんも加え、2人の大使と4姉妹が財団マ



スコットのベルマーくんと一緒に写真を撮らせていただき、財団公式Instagramにアップしました。

姉妹のお母さんの板坂朋子さんによると、いちばん下のありささんが初めて会に参加した帰り道、「あー、小数点習っていて、よかったー」と話したことが印象深く残っているそうです。当時ありさんは小学4年生。習ったばかりの小数点を使えて充実感を持ったのでしょう。「それ以来、みんな『楽しい』と、ずっと参加させてもらっています」

この日、お母さんたちときた6年生

豪雨禍の広島に1万点寄贈

🚩 キューアンドエー株式会社が収集・仕分け

笹塚にあるキューアンドエー株式会社(川田哲男社長、本社・東京都渋谷区)本社の会議室に7月のある日、ベルマークの入った袋が積み上げられました。

コールセンターやICT(情報通信技術)サービス、人材派遣事業などを展開している同社は、創立20周年の記念事業として昨年2月から、全国の事業拠点とグループ会社の社員3000人にベルマーク収集を呼びかけていました。その仕分け作業が始まるのです。



「同じ会社でもマークが何種類もあるんですね」「デザインが違ってても、点数が一緒なら分けなくて良いんですか?」「きれいに切り直した方が良いでしょうか」……。皆さん熱心に質問しながら、手際よく作業を進めます。

初めての作業にも関わらず、会社ごとに用意した紙コップは1時間でいっぱいになりました。広報担当の大野香穂里さんは、「種類が多くて難しいイメージがありましたが、思っていたより早く仕分けできました」と話してくれました。

今回一番多く集まったのはファミリーマートのおむすび、2位は麒麟ビバ

レッジの生茶でした。来客用のお茶を生茶に切り替え、社内の自販機の隣にハサミと回収箱を置いた結果、回収率がかなり上がったといいます。川田社長もペットボトルのラベルを自らはがして必ず集めているそうです。

ベルマーク運動担当の副社長・常務秘書の山田有子さんによると、ファミマのおむすびを毎日食べてコツコツ集めてくれた人、保険証券など目につきにくいマークをわざわざ探して送ってくれた人もいたそうです。「豪雨災害に遭った広島の実業拠点からもベルマークを通じて役に立ちたいという声があがりました」。仕分けたマーク(約1万点)は広島県立広島南特別支援学校に寄贈されました。「近隣にはオペレーションセンターもあり、地域に密着した貢献を、と選びました」。



ベルマーク運動を取りまとめるリレーション・ブランディング戦略本部の部長で執行役員の安達あけるさんは、「誰でも気軽に取り組めるのがベルマークの良いところ。今後も全国の子どもたちの役に立ちたい」と思いを込めました。

の川島陽樹(はるき)くんは、今回が5回目の参加。お手伝いとして始めたけれど「楽しい。ひとつのことを頑張ってやるところがいい」。一緒に来ていたお姉さんの中学2年、由奈さんは「集めていたベルマークが、その後はどうなるのかなと興味がわき、会に参加するようになりました」と話してくれました。



天然地下水で洗ったバナナ スミフルが新発売

協賛会社のスミフルジャパン(ベルマーク番号70)が、より安全・安心を求めるお客様向けに、天然地下水で綺麗に洗浄した「メキシコ産 有機栽培バナナ」の販売を始めます。

このバナナは、食品安全の総合的な「適正農業規範(GAP)」や、森林の維持保全、貧困の緩和といった基準を満たし、認証を取得した農園で作られています。禁止農薬や化学肥料を使わずに栽培し、収穫後に天然地下水で洗浄。使った後の水は畑にある池に貯め、灌漑用水として再利用するなど、持続可能性に配慮したバナナです。3点のベルマークがついています。

他に「メキシコ産 熟撰おいしいバナナ(ベルマーク1.5点)」も同時発売しました。商品情報は同社HPから。



ベルマーク財団からの今年度の学校支援

ベルマークを集めて学校の備品を買い、その金額の10%が教育環境に恵まれない学校への支援資金になります。ベルマーク財団は、この資金や各種寄付金、寄贈マークなどを使って、今年度も国内外のさまざまな学校に対しての支援事業を実施しています。

【国内】東日本大震災被災校＝岩手・宮城・福島3県の小中学校に計1020万円相当の教育備品やバス費用を支援▽西日本豪雨被災校＝被害を今後調査して実施▽へき地学校＝100校に希望の備品・教材(1校30万円相当)と朝日ジュニア学習年鑑を贈呈。一輪車と理科実験の出前教室を計14校で予定▽特別支援学校＝58校に希望の備品・教材または拡大読書器かプロジェクター▽院内学級＝4学級にタブレットなど

【国外】日本人学校・補習校＝4校に希望の備品・教材▽アジアを中心とした開発途上国＝保健教育活動、給食プログラム、図書室や寺子屋の開設など、国際NGOが進める9事業を支援

ベルマーク便りコンクール 締切迫る(9月30日)

第33回ベルマーク便りコンクールの締め切りが9月30日(消印有効)に迫ってきました。応募すれば、もし受賞を逃したとしても、参加賞として2000円の図書カードがもらえます。ぜひご応募ください。

【応募方法】家庭や子どもたち、地域の人たちに向けた、ベルマークの収集や活動への協力を呼びかけるお知らせや新聞、広報紙をお送りください。特集号や冊子なども含め、過去1年以内(2017年10月1日～2018年9月30日)に製作されたものが対象です。サイズや、カラーか白黒かは問いません。年間の活動状況がわかるように、なるべく多くの作品をお送りください。肖像権や著作権上で問題となる可能性がある内容については審査の対象外となる場合があります。

【あて先】〒104-0045 東京都中央区築地5-4-18、ベルマーク財団「ベルマーク便りコンクール係」

【賞金と参加賞】優秀賞10点に各3万円と副賞として額入り表彰状、佳作10点と特別賞には各1万円と額入り表彰状を贈呈。11月に財団HPで発表します。